

平成30年9月11日
観光局観光政策課

三重県観光振興基本計画年次報告（平成29年度）について

みえの観光振興に関する条例（平成23年10月20日三重県条例第34号）第21条の規定に基づき、三重県観光振興基本計画（以下、「基本計画」という。）に基づく施策の実施状況等について、平成29年度分を年次報告として取りまとめました。

1 三重県観光振興基本計画の目標達成状況

目標項目	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 目標値	平成31年度 目標値
① 観光消費額（年）	4,919億円	5,273億円	4,950億円	5,000億円以上
② 観光客満足度（年度）	26.7%	18.5%	24.5%	25.5%
③ 県内の延べ宿泊者数（年）	930万人	832万人	995万人	1,000万人
④ 県内の外国人延べ宿泊者数（年）	351,870人	334,230人	430,000人	450,000人
⑤ 国際会議の開催件数（年累計）	17件	25件	13件	20件

2 平成29年度の主な取組状況

(1) 観光の産業化のさらなる推進戦略

- ・三重県、伊賀市、三重大学、日本航空株式会社による産官学民の連携により、「忍びの心・技・体」を体験できるプログラムを日本国内外に発信するため、「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトが発足しました。取組の一環として、伊賀市丸柱地区での体験プログラム造成に向けたモニターツアーを平成29年11月に実施しました。
- ・皇學館大学のCLL活動（伊勢志摩圏域内で、学生が地域課題解決を体験的に学ぶプログラム）において、大学生による「みえ食旅パスポート利用促進プロジェクト」として、「みえ旅案内所」での発給体験、「みえ旅おもてなし施設」でのサービス体験、「全国まちづくりカレッジ」でのSNS写真投稿キャンペーンなどを行いました。
- ・平成29年5月12日に（一社）相差海女文化運営協議会が、平成29年11月28日に（一社）伊賀上野観光協会が地域DMOとして、平成29年11月28日に（公社）三重県観光連盟が地域連携DMOとして日本版DMO候補法人に登録されました。
- ・三重県観光連盟公式サイト「観光三重」に、新たに「遊び・体験予約」を追加し、三重県内の観光に関する情報・商品・サービスを一元的に集積して発信・販売するWebプラットフォームへと改修を行いました。
- ・伊勢志摩国立公園への誘客を促進するため、横山園地（志摩市）において「展望デッキ（天空カフェテラス）」が整備されました。また、外国人向けモニターツアー（11事業者参加）の実施、地域住民の機運醸成に向けた伊勢志摩国立公園の指定日を記念するイベントの開催、地域の自然や魅力を伝えることのできる人材育成のためのセミナー（受講生12人）や地域住民との交流会の開催に取り組みました。
- ・三重が輩出した世界に誇る偉人本居宣長をテーマに「宣長サミット」を平成29年10

月 14 日に開催するとともに、県立美術館 35 周年記念事業の一つとして「本居宣長展」を平成 29 年 9 月 30 日から 11 月 26 日まで開催しました。

- ・MieLIP 尾鷲において、地域資源を活用した体験交流として、モンベルアウトドアチャレンジと協同組合尾鷲観光物産協会が「馬越峠と天狗倉山（てんぐらさん）トレッキング」を 11 回開催しました。
- ・食・観光に関わるサービス産業の次世代の経営を担い、中核となる方々を対象に、「おもてなし経営」に関する知識・技能を習得する 5 回の連続講座「おもてなし経営 中堅・リーダー育成塾」を開催（57 名参加）するとともに、質の高いサービスを提供している事業者への派遣研修「おもてなし経営 実践道場」を開催（7 名参加）しました。
- ・県内の 9 商工会議所に「みえのしごと」魅力発見に関する業務委託を行い、地域に魅力のある産業や事業所があることについて児童生徒や教員の理解を深める機会を創出しました。特に、鳥羽商工会議所では、鳥羽高等学校の観光ビジネス系列の 2 年生が、鳥羽市内の旅館・ホテルを見学するとともに、そこで働いている人から仕事のやりがい等の聞き取りを行う等、地元の基幹産業である観光業を知る機会を設けました。

（2）伊勢志摩サミット開催等の好機を生かした誘客戦略

ア 国内誘客

- ・「みえ食旅パスポート」の取組により、観光客の周遊性・滞在性の促進と地域の消費喚起・拡大を図りました。（発給数（平成 30 年 3 月末時点）：238,161 部、応募者数：ファースト 10,492 人、セカンド 6,716 人、プレミアム 4,338 人）
- ・映画「忍びの国」公開を機に「天正伊賀の乱ゆかりの地 忍者の里スタンプラリー」を実施し、伊賀地域への誘客・周遊促進に取り組みました。
- ・四日市港と鳥羽港を本県の新たなゲートウェイとして、国内外から多くの観光客に呼び込むため、両港の客船誘致団体と連携したクルーズ船の誘致活動に取り組み、平成 30 年 1 月、四日市港に初の外国客船「コスタ ネオロマンチカ」が寄港しました。
- ・南部地域 10 市町が連携し、ライダー目線で地域の魅力を取り上げたツーリングガイドをプレ版 10,000 部、本冊 40,000 部作成し、地域内外の道の駅や高速 SA、バイクショップ等に設置し、地域の PR を行いました。
- ・平成 29 年 10 月 16 日に三重テラスで全国海女文化保存・振興担当連絡会議、平成 30 年 2 月 11 日に有識者を講師に招き、一般向けに海女漁の魅力を発信する「海女トーク」を三重テラスで開催しました。また、平成 29 年 11 月から平成 30 年 2 月にかけて石川県・福井県と合同で 3 県パネル展を 6 か所で開催し、文化財の活用のある方や海女漁に関する情報・魅力について発信しました。
- ・ホームページ「観光三重」を活用し、「みえ食旅パスポート」及び「みえ旅案内所」、「みえ旅おもてなし施設」の利用促進を図るための特集レポート記事を 15 本掲載するとともに、季刊紙「観光三重」など、観光連盟が持つツールを活用した県内の魅力発信に取り組みました。（ページビュー総数：16,117,935 件、訪問者総数：7,228,588 人）

イ 海外誘客

- ・平成 29 年 7 月に、県内事業者とともにフランス（パリ、マルセイユ、ニース）の旅行会社等を訪問し、セールスを行いました。また、パリ、ニューヨーク、ロサンゼルス

を行いました。さらに、フランス及び台湾には現地レップ（県に代わって営業活動を行う代理人）を設置し、現地の旅行会社やメディアへのセールス等プロモーションを展開しました。

- ・「ゴルフツーリズムの地域間連携の促進に係る覚書」（MOU）に基づき、タイのゴルフ場関係者など 135 名がゴルフツアー及び交友交流のために来県しました。
- ・平成 29 年 11 月に知事を団長としたミッション団がベトナムとタイを訪問し、ベトナムでは現地旅行会社等との意見交換会を、タイでは現地セミナー・商談会や旅行会社へのトップセールス等を行い、旅行商品の造成に向けて三重県の魅力を PR しました。
- ・海外メディアや旅行関係者等による県内視察 54 件を受け入れました。
- ・平成 29 年 6 月から若者を中心に利用者が増加している Instagram の運用を 3 言語（英語、中国語（繁体字）、タイ語）で開始し、旅行者等からの「#visitmie」での投稿数は平成 30 年 3 月末で約 4,500 件となりました。
- ・台湾からの教育旅行誘致に向け、訪日教育旅行現地説明会への参加、教育旅行視察の受入、台湾の学校及び旅行会社へのセールスなどに取り組んだ結果、平成 29 年度に、延べ 12 校、274 名が教育旅行で三重県を訪れました。

ウ MICE誘致

- ・職員によるセールスなどの誘致活動の結果、「デスティネーション・アカデミー with トリップアドバイザー（アジア太平洋地域）2017」や、「『持続可能な観光国際年』記念国際観光シンポジウム」など、平成 29 年の国際会議開催件数は、目標値（4 件）を上回る 8 件となりました。

（3）利便性・快適性に優れた人にやさしい観光の基盤づくり戦略

- ・三重・奈良・大阪ルートと駅位置の早期確定と一日も早い全線開業をめざし、名古屋以西の自治体、経済団体による新たな連携体制となる「三重・奈良・大阪リニア中央新幹線建設促進会議」を結成して J R 東海との連携活動等に着手しました。
- ・外国人旅行者の円滑な受入のため、インバウンドについての研修（基礎研修、専門研修、語学研修）を実施しました。（延べ受講者数 324 人）
- ・全国通訳案内士の登録等の事務手続きを滞りなく処理するとともに、県ホームページへの県内全国通訳案内士（希望者のみ）の掲載に向けての準備作業を行いました。
- ・UD 団体等との連携を図り、観光施設、商業施設等におもいやり駐車場利用証制度への協力を依頼し、おもいやり駐車場の設置を促進しました。（おもいやり駐車場登録施設数 2,122 施設（平成 29 年度末現在））
- ・観光客の安全確保を図るため、関係団体等と連携し、観光地における防災対策に取り組みました。（研修・セミナー：5 回、訓練：1 回）
- ・災害時に避難所として活用される建築物（ホテル、旅館等）の耐震化を促進するために、2 棟の耐震改修工事を実施し、1 棟は完了し、1 棟は平成 30 年度完了に向けて工事継続中です。
- ・各種会合等において、三重県暴力団排除条例に関する講話を行い、飲食店及び旅館事業者等を含む事業者に対して条例の周知を図りました。また、あらゆる機会を通じて、宿泊事業者等の施設管理者に対し、暴力団排除条項の導入を働き掛けました。

3 今後の取組

(1) 平成30年1月～6月 県内延べ宿泊者数（速報値）

	平成29年1～6月 (確定値)	平成30年1～6月 (速報値)	前年 同期比	平成30年度目標値 (平成30年1～12月)
延べ宿泊者数	3,923,910人	3,895,250人	99.3%	995万人
外国人延べ宿泊者数	143,700人	169,180人	117.7%	430,000人

うち、重点国・地域の延べ宿泊者数

重点国・地域	平成29年1～6月 (確定値)	平成30年1～6月 (速報値)	前年同期比
台湾	20,590人	23,650人	114.9%
香港	10,630人	11,820人	111.2%
タイ	5,760人	17,770人	308.5%
マレーシア	2,490人	2,650人	106.4%
フランス	2,170人	2,940人	135.5%
計	41,640人	58,830人	141.3%

- ・本県が重点国・地域として取り組んでいる5つの地域（台湾、香港、タイ、マレーシア、フランス）からの宿泊者数は、前年同期比141.3%と、外国人全体の宿泊者数の前年同期比117.7%より、伸び率が23.6%高くなっています。
- ・特に、昨年11月に知事ミッションで訪問したタイからの宿泊者数が大幅に増加し、前年同期比308.5%、昨年の年間宿泊者数13,540人を超えています。

(2) 平成30年夏休み期間中の主要観光施設観光入込客数

	平成30年夏休み	対前年比
観光入込客数	6,254,961人	103.4%

- ・真夏日や猛暑日の増加、台風第12号、第20号の影響があったものの、全国高等学校総合体育大会の開催や、関西圏在住の30代・40代のファミリー層を主なターゲットとした「めっちゃおもしろいやん！三重キャンペーン」の展開、さらに県内主要観光施設の積極的な取組等により、ほぼ前年並みの観光入込客数となりました。

(3) 今後の主な取組

- ・SNSを重視する外国人の個人旅行者（FIT）の誘客に向けて、Instagramを活用した写真投稿参加型の「#VisitMie」キャンペーンを実施します。
- ・2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技観戦者の誘客に向けて、日本初開催となる「IAGTO 第1回ゴルフツーリズムコンベンション」を9月28日から10月6日まで三重県で開催します。
- ・宿泊施設の魅力向上に向けて、平成30年3月29日に締結した株式会社リクルートライフスタイルとの「宿泊業の働き方改革」に関する連携協定に基づき、業務面・人事面の改革に興味関心の高い経営者及び経営層の方、次期経営者候補等を対象に、研修プログラム「持続可能な宿経営の未来塾」を10月から12月に実施します。
- ・国内外からの誘客促進、特に宿泊者数の増による観光消費額の増大に向け、県庁内各部署をはじめ市町、観光事業者、観光関係団体と連携し、オール三重で取り組んでいきます。